

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回 枚方市総合計画審議会 第1部会
開 催 日 時	平成27年2月27日（金） 18時30分から20時10分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 第3委員会室
出 席 者	部会長：新川委員 副部会長：加藤委員 委員：岡田委員、北川委員、小原委員、徳久委員、本田委員、宮原委員、三輪敦子委員、三輪信哉委員
欠 席 者	—
案 件 名	基本計画に係る部門別の取り組みについて
提出された資料等の名 称	1. 部門別の課題と対応一覧（案） 2. 部門別の取り組み進捗状況一覧
決 定 事 項	資料1及び資料2に基づき、基本目標「安全で、利便性の高いまち」、「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」、「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」に関する各部門について、基本計画に掲載していく課題や対応の内容を確認・議論し、引き続き、次回の部会で、残りの基本目標等について議論していくこととした。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	2人
所 管 部 署 (事 務 局)	政策企画部 企画課

審 議 内 容

新川部会長

ただいまから、第3回目枚方市総合計画審議会第1部会を開催いたします。時間の都合もありますので、事務局から委員の出席状況の報告をお願いします。

事務局

本日の出席委員は9名でございます。枚方市附属機関条例に基づきまして、この部会が成立していることをご報告申し上げます。

新川部会長

それでは早速でございますけれども、本日の案件、基本計画に係る部門別の取り組みについてということでご議論をいただければと思います。今18時30分ですので、20時まで1時間半ぐらいを予定させていただいておりますが、毎回、全体として2時間ぐらいで進めさせていただいております。それで、委員の皆様方には、お手元に配付いただいております資料を参考に見ていただきながら、部門別の課題と対応について、先ほどご説明をいただきましたけれども、それぞれご意見をいただければと思いますし、またご議論もいただければと思っております。ご発言いただきました内容につきましては、前の模造紙に記入させていただきまして、ご確認いただくということもできますし、それから、部会の最後にはご議論の確認、共有ができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

なお、限られた時間ということでございますので、一応目安ですけれども、基本目標の1つ目「安全で、利便性の高いまち」から順番に、1つの基本目標について30分程度で議論をいただく。多少長い短いが出てこようかと思っておりますが、順次、項目ごとに進めてまいりたいと思っておりますが、この点はよろしゅうございますか。もちろん、後で気がついて元に戻ってくるということは当然あるかと思っておりますが、それはもうその時々でお気づきになられた点をお話いただければと思います。一応、そういう進め方をさせていただきたいと思っておりますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。それでは、ご了承いただいたということで、早速進めさせていただきたいと思っております。

まず、お手元の資料1の1ページから3ページにございます「安全で、利便性の高いまち」について、ここでは基本的に4つの小さな項目に分けて、それぞれ、「課題」、「取り組みの方向」、「行政の主な取り組み」、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」という形で整理されてございます。この3ページ分につきまして、少しご意見、あるいは論点になりそうなところをいただければと思います。どこからでも結構です。よろしくお願いいたします。

三輪敦子委員

対応の中の「左欄の具体的な事業例」という欄がありますよね。先ほどの事務局からの説明では、基本計画には載せずに実行計画に記載するとご説明いただいたのですが、「具体的な事業例」は私たちが議論を求められている範囲に入っているのか。それとも、実行計画なので、私たちはそこまでを議論することは求められていないのか、どちらかを確認させていただけたらと思います。

事務局

「左欄の具体的な事業例」は、いわゆる実行計画という部分で、具体的にこの「行政の主な取り組み」をイメージしていただく目的でこの欄に記載しているものでございまして、例えば、「地域防災計画に基づく施策の推進」と記載させていただいておりますが、「行政の主な取り組み」だけではなかなか具体的に何をしていくのかイメージしていただけない部分もございますので、こういった形で、市として、どういうことをやっていくかをイメージしていただくために記載させていただいたものになります。ですので、基本的にはこの部分で議論いただくということよりも、「課題」や「取り組みの方向」、また「行政の主な取り組み」、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」のところを主に見ていただけたらと考えております。

新川部会長	<p>はっきり言いますと、「左欄の具体的な事業例」は我々の議論の対象にはならない。ただ、「行政の主な取り組み」をいろいろと議論していただく上で、抽象的、一般的な書き方になるので、実際、これを書くときどんなものが行政の仕事として出てくるのか、そういうものをわかりやすく出している。ただし、ここに記載されていることをそのまま実施するという意味ではない、そういう趣旨だろうと思います。そういう位置づけとしてご理解いただければと思います。</p> <p>もちろん、こういう事業例を念頭におきながら、行政としてどんな取り組みをしないといけないのか、対応のところは当然私たちが考えていくことになるかと思っておりますので、そういうおつもりで議論いただければと思います。</p> <p>当然、ご意見としては、こんな事業を実施してはどうかというような話は出てきますが、それはそのまま逆に言うと、基本計画の中にはなかなか入ってこないということになります。もちろん、ご意見としてはそういうところを議論いただくことも当然出てくるかと思っておりますが、言うてはいけないということではなく、この部門ではこういうことを考えないといけないですよという例として挙げていただくのはよろしいかと思っておりますので、あまりどっちかなということは気にされずご発言いただければと思っております。</p> <p>そこは、意見を取りまとめさせていただくときにまた、私と事務局の方で少し整理はさせていただこうかと思っております。また、繰り返し議論していただく時間はありますので、それは違うというようなことがあれば、改めて次の部会、あるいは審議会でご議論いただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>
三輪敦子委員	<p>わかりました。追加で1点だけお伺いしたいのですが、実行計画を作られる際には、例えば「左欄の具体的な事業例」にいろいろな項目がありますけれども、それぞれに関して、指標ですとか、達成目標みたいなものは設定されると考えてよろしいですか。</p>
事務局	<p>進捗管理の手法につきましては、前回の審議会でもご説明をさせていただきました。具体的には、総合計画、この基本計画の中に指標についても記載していくという方向性はもっていますけれども、先般の審議会でも三輪委員からご意見をいただきましたが、具体的な指標の表し方につきましては、今後議論を進めていただく必要があると考えておりますが、細かな部分でどういう載せ方をしていくのか、目標値を計画の中に示していくのかどうかは今後検討いただくと。ただ、前回も少しお答えさせていただきましたが、基本計画自体が12年間と少しスパンの長い計画となりますので、あまり個別具体的に目標値を入れてしまうと、それが陳腐化していないかということもございまして、そのあたりも含めて、今後ご議論いただけたらと考えております。実行計画になりますと、細かい部分になりますので、そのあたりは今後どうしていくのかという点も、今後ご意見いただかなければと考えております。</p>
新川部会長	<p>基本計画として、どういう数値目標や、進捗管理、評価のしやすい仕組みをつくるかということと、それから、もう一方では、実行計画のところは完全にPDCAで回していただきますので、それぞれの事業ごとに、何をどこまで達成できたかというのは、毎年事業評価のような形でやっていただくということになるかと思っております。</p> <p>そういう点では、基本計画で、どんな指標の立て方、目標の立て方をしていったらいいのか、そこは、今回と次回の部会において基本計画の各項目をご議論いただく中で、各委員で少し考えておいていただいて、改めて全体の審議会の場でも少し議論させていただければと思っております。</p>
三輪信哉委員	<p>意見ではなく質問で、資料1を拝見していると4項目挙げられて位ですが、例えば、「災害医療・保健」というのも話し合うということではよろしいですね。</p>
新川部会長	<p>今は3ページ目までをご議論いただければと思います。今日は、できれば4ページ目からの「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」、それから10ページ目からの「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」の3本ぐらいはご意見をいただければと</p>

	<p>思っております。だいたい1件30分ぐらいでやりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
三輪信哉委員	<p>もう1点、部門別の「防災」、「生活安全」、「道路環境」、「公共交通」は基本構想とびったり一致しているが、この4項目以外に「災害医療・保健」、「住環境」は基本構想の13ページに載っていないのですが、これはどういった意味でしょうか。</p>
事務局	<p>「災害医療・保健」並びに「住環境」につきましては、この間、庁内調整等も含めて検討してきた結果、他の部門にあったものも含めて基本目標の「安全で、利便性の高いまち」に新たに記載させていただいているということでございますので、基本目標の白丸(○)で掲げております基本方向の中には今の時点では含まれていない状況になっています。</p> <p>今後、基本構想につきましても、引き続きご検討いただくということでお伝えしておりますので、こういった部分を含めてご検討いただければと思っております。</p>
徳久委員	<p>過年度の実績を存じあげないので、これは終わった事業だと言われるかもしれないのですが、「防災」の上から3つめの建築物の内容を見ると、どちらかという住宅支援といった内容になっているが、実際、防災に関してはインフラの維持管理が非常に大きいと思うのです。橋梁等々がかなり老朽化している部分が多いと思いますが、老朽インフラの維持管理等はどこに入るのでしょうか。</p>
事務局	<p>お手元の資料1の19ページ、「市有財産管理」の部門に記載させていただいております。「公共施設の計画的な整備・改修」で、老朽化した道路、橋梁、公園、上下水道などの都市基盤の計画的な整備・改修を進めていくというところで少し記載させていただいております。</p>
徳久委員	<p>どういうふうに区分すればいいかわからないですけれども、もちろん財産という観点から分ければ、この分け方はわかるのですが、一般的には防災のところに入ってくるイメージがあります。どちらの区分が適切かは、課の方がご存じなので、そちらの判断に任せたいと思いますが。</p>
事務局	<p>補足ですけれども、今、おっしゃっていただいた橋梁などの公共施設のインフラは、どんどん耐用年数がきて更新をかけていくことになると思うのですが、今までの耐震改修は、耐用年数がこなくても耐震改修だけをやっていくという考え方でしたが、枚方市では一定耐震改修ができておりますので、これからは耐用年数がきた施設を改修したときに、あわせて耐震の基準も今より上がっていくということになります。災害対策のための改修というよりは、耐用年数がきて改修し、それにあわせて耐震性も上がっていく。どちらで考えるかなんですけれども、「防災」の方を前面に出して記載するという考え方もあると思いますので、そのへんはご意見をいただければと思っております。</p>
三輪信哉委員	<p>書き方の面で、今、徳久先生がおっしゃったような疑問はすぐにおこってまいります。例えば、同じ項目でも2か所共通で記載するという方法は採用されないのでしょうか。1項目は必ず1か所にしか記載できないということなのか、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>現行の基本計画なんかですと、2つにまたがって載っていたりするのですけれども、今はわかりやすいように片方に載せていますが、両方に載せた方がわかりやすいというご意見でしたら、そういう形で表記をやり直していくということは可能でございます。</p>
加藤副部長	<p>今のところとも関連するのですが、参考資料で、例えば耐震について進捗がどれぐらい進んでいるかというところで、自主防災組織はちょっとおいて、民間の木造住宅耐震改修件数、これは明らかに住民というか、市民の生活にとって耐震がどれだけ進んでいるかということだと思いますし、その下の市有建築物耐震化率では、公共物の安全</p>

	<p>性がどれだけ確保されているかということというのと、さっきの議論からすれば橋に近いイメージがありまして、実際、両方に書いているじゃないですかということになると、やはり併記した方がいいと思います。</p> <p>だから、どっちから書くかということで、要するに、安全・安心ということの保障を受ける、サービスを受ける、つまり市民の側からこの枠組みを書きしていくのか、あるいは行政側からすると悪く言えば縦割りでやっていると思うのですが、その部署が何を担当するかみたいな意味合いで書くということとは、結構大きな問題だと思うんですね。</p> <p>たぶん、この審議会では、その境界を越えて、またがることをむしろ積極的にやった方がいいんじゃないかという意見があったときに、当然のことながら、たぶん行政組織の部署も越えて立ち向かっていくという感じになると思いますので、そのへんを整理して、方針を明確にされた方がよい気がします。最後のところに、部署を越えて横の連携をしながらやっていくようなことが、議論していくと入ってくるのではないかなと思います。</p>
新川部会長	<p>横串を刺す内容について、全体を見ていただいた上で改めて重点事業のようなものは考えていただくのですが、その前にできるだけきれいに分けてしまうというよりは、煩雑になるかもしれませんが、関連するものを丁寧に拾っておいて、他のところにも出てきそうなものをマークしながら出していく、そういう方向で考えてはどうかということで、ご意見をいただきました。</p>
徳久委員	<p>資料をざっと見た感じですが、「～つくります」というものが圧倒的に多くて、でも財政的に見た場合、実際には、本当にそんなにばんばんつくれるのかという問題があります。とてもハッピーな計画内容しか載っていないくて、おそらく、老朽化した施設に関しては除却等々も含める必要があると思いますし、統廃合の問題も重要だと思うのですが、そういった課題が前面に出ないというのは、今の時代にあっていない気がするんですけども、その点も必要であれば書き込んだ方がいいのではないのでしょうか。</p>
加藤副部会長	<p>たしか、周辺にお住いの市民の方が、中心の商業施設やあるいは病院等にアクセスするための100円バスの話があったと思いますけれども、これは、「安全で、利便性の高いまち」を実現するための一つの手段になると思いますが、ここには書いていないですよ。別のところで出てくるのでしょうか。</p>
事務局	<p>100円バスという形では載せておりません。「公共交通」のところには、JRや京阪など鉄道とバス路線なども含めて利便性の高い交通環境を備えているけれども、さらなる公共交通の利便性の向上が重要な要素だという課題設定の中で、その解決の方向としての100円バス等の具体的なところが、まだ書けていないということです。</p>
新川部会長	<p>少しとぼしてしまいましたが、先ほど徳久委員からございました施設やインフラの除却の問題というのは、どんな感じでしょうか。</p>
事務局	<p>それにつきましては資料の19ページの「市有財産管理」の下の行で、先ほどのご指摘と同じような状況になっているんですが、「長寿命化や統廃合など、効果的・効率的な市有財産の活用を図ります」という趣旨で今の時点では記載をさせていただいているということになります。</p>
三輪敦子委員	<p>「防災」のところに入れるべきか、それとも「災害医療・保健」のところに入れるべきかというのはあるのですが、特に避難所などとの関連で災害弱者と呼ばれる人たちへの配慮はぜひ計画の中に入れていただきたいと思っています。具体的な事業例までは基本計画に入らないということですので、「行政の主な取り組み」の内容だけだとしてどこにでもあるようなことしか入らない懸念もありますが、枚方らしさというのを出すためには、「行政の主な取り組み」のところ災害弱者の方たちに対する配慮を防災計画としてきっちり入れること、地方自治体には防災会議を設置することが求められていると思</p>

<p>新川部会長</p>	<p>いますので、そちらの方でメンバー構成も配慮しながら徹底していくということは加えてもいいのではないかなと思います。</p> <p>東北に行ったときに非常に印象的だったのが、避難所に来ることができない方がたくさんおられるということで、例えば、障害のある家族が避難所に行ったら迷惑をかけると言って来ることができない、あるいは高齢者の方は避難所に行くことさえも困難であるというお話を聞いて、非常に考えさせられるところがありました。災害弱者へのまなざしに関する内容はどこかに入れた方がいいと思います。</p> <p>大事な論点ですね。防災計画等では、おそらく高齢者あるいは障害者についての対策を別途やっておられたと思いますので、そのあたり、上位計画としても、きちんと災害弱者と一般的に言われる方々に対する対応策というのは一定考えておかなければいけないかもしれません。ご検討いただければと思います。</p>
<p>宮原委員</p>	<p>災害弱者ということはわかるんですが、要援護者とはまた違った表現でしょうか。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>全部含めて考えていただければと思います。</p> <p>要するに、災害時に避難をするにしても何にしても支援が必要な方、応援が必要な方、そういう趣旨で災害弱者という言葉を使っております。</p> <p>ですから、主に対象になるのは障害のある人、それから一定程度以上の介護を必要とされるような方、そういう方々が含まれることになります。</p>
<p>徳久委員</p>	<p>「防災」の「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」のところで、一般的に事業者と災害時に関しては連携して備蓄品を提供してもらう取り組みなどを行っているところが多いと思うのですが、あまり強制的に事業者にさせることはできないと思いますけれども、要は、避難所をつくる場合においても、乳幼児を抱えている方だけのための避難所をつくるということで、幼稚園や保育園施設を提供してもらうなどいろいろな試みがあると思うのですが、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載がやや薄い。行政がやっていることはこれまでもずっと書いてきたと思うのですが、今回の計画に関しては、みんなで連携してやっていきたいと思いますという割には、その記載が薄いので、若干足された方がいいかと思います。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>今、実際には、防災計画などでも、災害時の帰宅困難者の支援であるとか、災害備蓄品の提供であるとか、あるいは民間施設そのものを避難所としたり、津波のケースでは避難タワーの代わりに使ったりなど、民間事業者の方々といろいろな形で協定を結んでいるようなところもたくさん出てきています。そのあたりは、今後当然充実していかないといけないところかもしれません。よろしくご検討ください。</p>
<p>岡田委員</p>	<p>「農業」の項目の中に、防災と関係しまして「防災協力農地制度の活用」とありまして、実は、枚方市はまだ確立されていないのですが、近隣の寝屋川市とか、守口市では、何らかの特典をつけて指定しているところがございます。</p> <p>「防災」の欄には、防災協力農地は「農業」の方に記載されているからいいのかなとも思うが、防災協力農地は農業のためではないはずで、都市農業を守る一つの名目にはなるかなとは思いますが、そのへんはどうなのかなと思います。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>事務局の方で、今の防災協力農地について少し検討していただきたいと思います。実態も含めてよろしくお願ひします。</p>
<p>三輪信哉委員</p>	<p>1ページ目の「災害医療・保健」の記載で、「中長期にわたり医療・保健活動を展開する」とあるが、これはどういったことをイメージすればいいのでしょうか。中長期というのはどういう意味合いでしょうか。</p>

新川部会長	東日本大震災の例でいえば、やはり少なくとも避難所での生活が2年から3年に及び、この間に心身ともに健康を損なうというケースがたくさん見られるということもございました。心のケアも含めた保健衛生活動が、この間、非常に重要な役割を果たしているというのは聞いております。そのことなのかどうかはよくわかりませんが。
事務局	具体的なイメージにつきましては、今会長の方からおっしゃっていただいた中長期的なスパンで、災害発生、罹災時の対応とあわせて、少し長期間にわたって、精神的な部分も見えていく必要があるということで記載させていただいておりますが、もう少しわかりやすい表現にするよう検討させていただきたいと考えております。
新川部会長	それでは、また戻っていただいても結構ですが、お約束の時間がきましたので、4ページ目からの「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」についてご意見をいただいてまいりたいと思います。ここも、大きな柱、4つほどございまして、9ページまで、「健康」、「医療」、「福祉」、「人権」や「男女共同」に関わる問題、大きく4つの部門に分けて整理をさせていただきます。こちらのご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いたします。
徳久委員	健康や高齢者のところもそうですし、特に、こころのケアのところもそうなのですが、結局、ここの項目になると、いきなり、行政は行政、市民は市民というように、ものすごく縦に割られていて、行政側による市民の活動支援という書かれ方があまりしていません。実際問題として、地域包括ケアシステムとかをつくっていく場合においては、当然、地域の活動がコアになってこないと回らない部分がたくさんあると思うのですが、すでに活動されているNPOや市民団体の活動の活性化及び支援という観点がなんとなく抜けているという気がするんですけども、そういった部分がないと、結局、これまでどおり、行政は啓発活動を頑張って、市民は市民でやっていますみたいな形になってしまいますので、そういった観点をできれば全般的に入れていただきたいと思います。
宮原委員	認知症のところですが、認知症は高齢者ばかりがかかるのではなくて、若年の方もいらっしゃるのですよね。このままの内容でいくと、例えば、行政は高齢者のみを対象としていて、窓口は高齢社会室なんですよ。若年の方々は高齢社会室には行けないということですよ。認知症とひとくくりにしたときに、高齢者のみを対象にすると、どこか窮屈なような気がする。
新川部会長	現在、若年の認知症の問題は社会的にも大きくクローズアップされていますので、どうしても高齢者福祉のところでも大きく取り上げざるを得ないのかもしれませんが、市民の健康の問題としても、ぜひしっかり取り上げていく必要があるのかもしれませんが、さきほど、徳久委員からありましたように、市民と一緒に健康づくりをやるとか、地域福祉をやっていくという内容は、どこらへんで強調されることになるのでしょうか。たしかに、言われてみると、あまりない気がするのですが。
事務局	先ほど言っていた地域包括支援、高齢者福祉はもちろんですけれども、この中で言うとスポーツなんかでも、市民の方が中心になって活動されていることを支援していくということもあるでしょうし、全般的にそういう考え方が含まれていないように思いますので検討したいと思います。
新川部会長	少し、全体をチェックしていただいて、「取り組みの方向」、「行政の主な取り組み」の中で検討していただければと思います。
岡田委員	市民農園についてですが、「農業」の項目に特段記載はなかったのですが、では、「健康」であったり、「高齢者福祉」であったり、そういう欄に記載されているのかなと思ったのですが、特段記載はない。例えば、認知症ケアによいということもあるので、どちらにせよ抜けているように思います。

新川部会長	市民農園という事業として考えますと、具体的な事業例のところに入ってしまうのかもしれませんが、こういうことも想定した福祉とか、健康づくりという内容が当然あってもよいということだろうと思います。
三輪信哉委員	「健康危機管理」のところで、私どもも、頭の中にすぐ浮かぶのは、エボラ的な疾病が予想されるのですが、それに比べたら、新型インフルエンザも恐いの恐いのですが、そのへんの書き方で、「など」のところそれが含まれると思うのですが、非常に手ごわい感染症が増えていくので、そのへんは大丈夫なのかなと思ってしまふんですが、そのへんはどうでしょうか。
事務局	さまざまな新たな感染症が世界中で発症しておりますので、今、委員が言われましたとおり、「など」のところできくらせていただいているというのが現状になっておりますので、今後記載については検討させていただく必要があるかなと思います。
徳久委員	もしかすると、次の基本目標の話かもしれませんが、この間、皆さんが議論をされていたときに、特に市民委員の方から多世代の交流が今後のまちづくりにはすごく大切だという意見があったと思うのですが、あらゆる世代が教育活動をやります、生涯学習をやりますというのはあるのですが、交流という観点がありません。ノーマライゼーションじゃないですけど、おそらく、障害をもった方も高齢者の方も、みんなで助け合ってまちをつくっていくということが、とても大事だと思うのですが、そういうニュアンスというのは、この計画の中ではどこに入るのでしょうか。
事務局	「生涯学習」のところで、委員からご指摘のございました観点で、1行目の「つながり」という部分で記載しております。
徳久委員	とても限定的で、当たり前の話しか書いていないので、そうではなくて、枚方市としては今後積極的にやっていきたいとおっしゃっている委員が多かったので、もう少し積極的に出した方がよいと思うんですけども。
事務局	委員ご指摘のとおり、審議会の中でも多くの意見が出されておりましたので、今のところはこういった形で書かせていただいておりますが、いただいたご意見を踏まえてこちらの方でも少し検討させていただきたいと思います。
新川部会長	今、議論いただいている「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」では、こういった健康づくりであるとか、あるいは福祉の問題であるとか、生涯学習のところで地域交流のことを少し書いておられますけれども、こういったところでも有効な方法だろうと思いますし、そういうことについて市民をあげて取り組んでいくというのは市民の役割でもあると思いますので、少し工夫をしていただければと思います。
三輪敦子委員	今、徳久委員がおっしゃったことにまったく賛成なのですが、それを実現するためには、施設の目的外使用といった当初予定していた予算とは違う使い方をする事になり、それには困難が伴うから、なかなか書けないということになるのでしょうか。例えば、学校として設置された建物を文科省関連以外の目的で使う、高齢者とか障害者とか、地域密着型の、誰もが健やかに生きがいをもって暮らせるための施設に使うということに関しては、非常にハードルが高いというか、具体的に実現するには困難が多いと考えざるを得ないという背景もあるのですか。
事務局	例えば、学校施設などにつきましては、今は、学校以外のものに使っても補助金を返さなくてもよいという方向ですので、以前に比べれば、そこまで神経質に考える必要はないように思います。具体的な事例が挙げたときには、もちろん何かあるのかもわかりませんが、今は昔よりハードルはかなり下がってきていると思います。

宮原委員	下がっています。コミュニティ室として空き教室をお借りしたり、教育委員会がやっている土曜日の事業を学校でやってくださったり、学校体育施設開放運営委員会というのがあって、グラウンドや体育館なども使えるようになっていて、だいぶ前から変わってきました。
三輪信哉委員	「学校教育」という分野がありますが、やはり学校そのものが地域の中の防災拠点であり、環境拠点でもあり、いろんな意味で拠点化できる。例えば、災害時に、そこにソーラーパネルを設置した校舎が建っていたら、そこで一時的に発電ができるとか、あるいは当然倉庫には非常食などが備わっているとか、あるいは緑の森をつくるとか、そういう意味で非常に拠点的な施設になるのですが、今の三輪委員のお話をさらに拡張したような、そういうところって非常におもしろい話がいくらでも展開できそうな気がする。でなければ、地域が自由に使えるような空き地とか建物の空いているスペースとかってどこにもない。そういう意味では、もし強く書き込むことが可能ならば、非常に重要なコミュニティ活性化になるのではないかと。
新川部会長	どこに書くかは悩ましいところがありますけれども、公共施設の有効活用で、健康とか福祉の問題でも、あるいは学校内、それから学校外の学びの場としても公共施設をもっと積極的に使いましょうというのは方向としてはあってもいいかもしれない。それが地域の皆さん方のコミュニティ活動を活発にしていったり、地域の絆をつくりなおしていったり、それから場合によっては新しい地域の自発的な活動が生まれたり、いろんな可能性があるような気がします。
加藤副部会長	香里団地の記載がありますが、例えばこういう団地における世代間交流などは、市が直接関わるのか、あるいは、居住も増やしたいという意図もありますが、住環境として多様な世代が住むようなことを促進するのか。分譲か賃貸かはわかりませんが、団地の状況はどうなっているのか。高齢者が非常に多くて、空き部屋が出ているのに、なかなか埋まらないのか。それを若者向けに少し改修すれば、そこで世代間交流などが生まれていくという感じになると思うが、もちろん、市が積極的にやるかどうかということはあるのですが、少し手を突っ込んでやってもいいのではないかとと思うのですが、そのへんの実態はどうなっているのでしょうか。
宮原委員	私の知る限りでは、UR は UR で管理組合、自治会を作って、自治会活動をなさっています。また、地域全体に見るとしたら、枚方市には小学校区ごとに45のコミュニティ協議会と福祉委員会があるので、福祉委員会のプログラムの中には世代間交流ということが大きくうたわれているので、福祉委員会が予算をもらって、小学校区ごとに世代間交流の企画を実施している実態はあります。
加藤副部会長	枚方市の場合は、大阪市に近いので、空き部屋や空きスペースが生まれてもすぐに埋まると思うのですがけれども、大阪府の南の方ではURで埋まらないところがたくさんあります。そこは深刻な問題なので、世代間交流をするために一生懸命に何かをやるのですが、そういうことって、ひょっとすると、枚方市あたりでも考えられた方が、非常に先進的な取り組みになるという感じがします。
宮原委員	実際、空いているところはいっぱいあると住んでいる人が言っていました。
加藤副部会長	URは自分たちのものなので、市が何かやるということはなかなか認めないのですが、それでも南の方に行くと、そこに手を突っ込まざるを得ないところもあります。
三輪敦子委員	ちょうどこの前、URが1960年代に建てた、当時としては先進的な団地を若者向けに改修したというニュースを見て、もしかして枚方市のことかと思ったら、千里ニュータウンのことでした。

三輪信哉委員	男山団地のこともやっていました。
三輪敦子委員	そこで取り上げられていたのは、URが無印良品と組んで、無印の製品を使って、大胆なリフォームをやって、そのことによって若い人たちを呼び込んでいるという話で、実際に若い人たちがたくさん入ってきていて、そのことによって空き部屋がなくなる効果が生まれているというニュースでした。香里団地や中宮団地でも使えるかなと思って見っていました。
宮原委員	好きにリフォームできればよいですね。
新川部会長	<p>いろいろな分野に関わってくる問題かもしれませんので、該当のところがなければ、いくつかの箇所に入れていきましょう。</p> <p>団地の高齢者問題とか、空き家・空き室問題、全体としては高齢化、少子化が進む中で変化しているので、どういうふうに対処していくのか、施設、住環境という面でもそうですし、保健・福祉の面でもそうですし、それから地域交流であるとか、生きがい、子育て、コミュニティといったところでもそうかもしれません。そういう複合的な視点で、こういう団地やあるいはそこの社会経済的な、あるいは人口構造みたいなものを考えていくというのも一つの策かもしれません。</p>
三輪敦子委員	<p>9 ページの「人権」とか「男女共同」のところですけども、「取り組みの方向」にも「行政の主な取り組み」にも、異存はまったくないのですが、ちょっとこの内容ではよくわからないところもあって、基本計画としてはそうならざるを得ないのか、それとももう少し何か書けないのかとも思い、少しフラストレーションを感じております。</p> <p>例えば、配偶者暴力相談支援センターはすでに枚方市にはあるわけですよ。それがあること自体、一步進んでいると思うのですけれども、例えば、最近では、そこをワンストップ化することが大切であるということも言われています。そういったことを、主な取り組みのところでは何か書けないかなという気がしています。</p>
新川部会長	「男女共同」の「行政の主な取り組み」としては、意識の向上と環境づくりと、それから管理職登用しか書いていませんので、ひょっとすると、本来必要な支援や、あるいは相談といったところが抜けているのかもしれない。
宮原委員	載せないところのことですが、「人権」の「左欄の具体的な事業例」のところに「高齢者サポートセンターの運営」とあるのですけれども、高齢者サポートセンターって枚方市の地域包括支援センターのことですよ。それが、ここに載ってくるのでしょうか。どうしてここに載ってくるのかわからなかったんで、教えていただければと思います。
事務局	ちょっとこれは整合性がうまくいっていない可能性がありますけれども、いわゆるDV被害者の一時支援を委託しているので記載されていると思いますが、本来でいうと関係ないので調整させていただきます。
新川部会長	DVの相談を高齢者サポートセンターにお願いしているということでしょうか。
事務局	そうではなくて、うちでいうと東大阪市の方になるが、DV被害者の緊急避難の関係で何か所かに委託をしまして、たぶんその関係で記載しているのではないかと思います。ここは整理をさせていただきます。
小原委員	全部に目を通してはいるわけではないが、この計画を見ていると暗い感じがする。なんか、悩みとか暗さばかりが見えてくる。癒しという面で「スポーツ」のところ少しあるが、芸術的なものの取り上げ方、そういったものはどこかにありますでしょうか。

事務局	<p>芸術といった部分につきましては、12 ページにございまして、基本目標の中で「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」の中に「文化芸術」であるとか、「歴史文化遺産」といったところで、それぞれの施策を入れさせていただいております。</p>
新川部会長	<p>ちょうど、「子育て」、「学校教育」、「生涯学習」、「文化芸術」といったところに入りましたので、そちらもあわせてご意見をいただければと思います。</p>
三輪敦子委員	<p>まだ案だからなのかもしれませんが、先ほどお話しさせていただいた人権関係のところでも、「人権被害者に対する支援体制の充実」という書き方と、その下の「男女共同」の上の方の3項目の書き方にはちょっと差がありますよね。3項目は、先ほど新川先生がおっしゃっておられたようにもう少し増やせる可能性もあると思うのですが、そういった表現の濃淡が少し気になります。例えば、6ページの「医療」では、「行政の主な取り組み」で「医療通訳士登録派遣制度の実施」という具体的な表現が使われています。このあたりは、まだ固まっていないということの表れなのか、それとも枚方市として売り出したいものなのでここまで書けるということなのか、どちらでしょうか。1行しかないところは、もう少し記載があった方がいいように思います。</p>
事務局	<p>いわゆるたたき台としてお示しさせていただいておりますので、少し濃淡があると言ったところではございますので、そういった部分も含めてご意見をいただけたらと考えております。まさに、今おっしゃられた「人権」「男女共同」のあたりは、濃淡が非常にはっきり出ているところになりますので、そういった意見も含めてちょうだいできればと考えます。</p>
三輪敦子委員	<p>「行政の主な取り組み」のところは、「医療」のところくらいの記載があった方が、何が行われるかが良くわかると思います。</p>
新川部会長	<p>特に、「行政の主な取り組み」のところの書きぶりですが、今ご意見がありましたように、具体的な事業例で全部記載されている項目と、それから一般的に「課題」や「取り組みの方向」を受けて、充実とか推進とかですませておられるところがあって、基本計画としてはバランスが悪いかなと思いますので、もうちょっとご検討いただかないといけないかなと思います。</p>
事務局	<p>今後調整します。</p>
宮原委員	<p>「生活福祉」の「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」欄に「民生委員は、住民の見守りや相談事により生活困窮者を発見し、福祉事務所に連絡」とありますが、連絡するだけでよろしいのでしょうか。</p>
徳久委員	<p>今、宮原委員がおっしゃったところが端的な例かと思うのですが、結局、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」というのは、現在すでにやっていて書きやすいものを書いているというイメージがすごく強い。ただ、先ほどから同じことを繰り返して言っていると思うのですが、今後の計画の話をしているのに、今後しなければならないものがなかなかここに載ってこないというのは少し問題があるような気がします。先ほどから問題になっている「人権」とか「男女共同」とかに関しても、おそらく、それは書く項が違うという話になるかもしれませんが、もちろん「学校教育」も重要ですし、当然のことながら支援活動をしているNPOや見守りに入っている民生委員など、さまざまな事業主体がそれぞれの活動の中でどのように取り組んでいくのかという観点もものすごく欠けている気がします。</p> <p>先ほど会長もおっしゃられましたけれども、行政の対応に関しても本来的には啓発しかできないという議論が行政側から出てくるのはわかりますし、その啓発というのが実際どれだけの効果を出すのかわからないという話もよく出てくるのですが、しかしその一方で、虐待問題等々に関しては、潜在的に相談したい人というのはかなり需要</p>

	<p>があるのだと思います。潜在需要を吸い上げるような支援体制、相談体制を今後ますます積極的につくる必要があるのですけれども、なかなかそういう観点が、「行政の主な取り組み」のところに出てこないのが、今後どういう対応をしていくのかという観点から、対応の部分をもう少し強化していただけたらと思います。</p>
宮原委員	<p>先ほどの私の発言について、民生委員でもあるので非常に気になるのが、まるで強制的に決めつけられているような文言にも感じられるところです。簡単に、「民生委員との連携を図る」のような表現にさせていただいた方が、あらゆる面でもよいと思います。</p>
新川部会長	<p>未来志向で考えたときに、これまでどおりではなくて、もっと役割分担をしっかりと、そして相互の連携をしっかりと組んでいくというような表現もあるかもしれません。あまりしっかりと入れすぎると、民生委員、ボランティアなどは困るという点もあるかもしれませんので、そのときはもっと軽くしてくれという話もあるかもしれません。</p> <p>そういう視点で、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」のところに、「将来こんなふうにみんながやっていたらいいよね」というニュアンスをぜひ出していただきたいと思います。「行政の主な取り組み」もたぶん同じだと思います。今までやってきた路線をやりますということだけではなくて、せっかく課題等々で今何が求められているかを書いていただいていますので、それにこたえるような、将来こんな方向に持っていけたらということで事業例としては入れられていますので、そういうところを参考にさせていただきながら方向付けをぜひお願いしたいと思います。</p> <p>「子育て」、「学校教育」、「生涯学習」、「文化芸術」、そのあたりもぜひご意見をいただければと思います。よろしくお願いたします。</p>
三輪敦子委員	<p>「子育て」の一番下のところですが、「行政の主な取り組み」に「ひとり親家庭等の自立支援」とありますが、これはひとり親家庭が経済的に自立するということでしょうか。</p>
事務局	<p>もちろん経済的なこともあると思いますが家事等の支援等も含んでいると思います。</p>
三輪敦子委員	<p>「若者無業者（ニート）やひきこもり等の困難を抱える子ども・若者」と「ひとり親家庭」とはちょっと状況が違うという気がするのですが、これは切り分けて考えられた方がいいかと思います。支援の方向も違うのではないのでしょうか。</p>
新川部会長	<p>特に「取り組みの方向」の書きぶりが少しわかりにくいというか、混乱を招くかなという感じもしますので、ちょっと整理いただければと思います。</p>
本田委員	<p>全体的な話ですが、一番左に「課題」が並んでおり、現状の課題がどの程度深刻なのかということや数字で表せるところは載せた方がよいのではないかという気がします。例えば、「学校教育」で、真ん中に「いじめや不登校などの問題が深刻化中」と書いているが、どの程度深刻なのか、枚方市でわかっている範囲で、昨年度のいじめの件数や、不登校の件数などが書いてある方が、どの程度問題なのかがわかりやすいと思います。他のところでもいろいろと現状の数字が載せられるところがいっぱいあると思うので、そういうものを入れた方がよいのではないかと思いました。それと、文字が多すぎて、読んでいて把握しにくいと思いました。</p>
宮原委員	<p>そういった数字とかは具体的な事業例のところに入るのでしょうか。</p>
本田委員	<p>目標ではなくて、前提としての課題のところに入れてほしい。</p>
新川部会長	<p>現状がどうなっているか、問題点があるのではないかというときに、数字で表せるものは数字で表した方がわかりやすいのではないかというご意見かと思いますが、どういう数字の表し方をするのが一番わかりやすいか、検討していただかなければいけないです</p>

事務局	<p>けれども、今、課題のところでもとめられている文章がありますが、この中に数字を当てはめていくとか、何人とかという数字を入れていった方がわかりやすいかもしれませんし、あるいは資料2にあるようなグラフがあるとわかりやすいのかもしれない。</p> <p>おそらく、基本計画の最終版が出てきたときに、こういう「課題」があって、それに対してこういう「取り組みの方向」があって、「行政の主な取り組み」の方向が出てきて、さらには「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」が出てくる、そんなイメージを持っていますので、そのときに、最初に出てくる現状把握をどこまで書き込むか、少し検討していただければと思いますが、前はどのようになっていますでしょうか。</p> <p>今、委員の方からもございましたが、他市の事例でも、そういった形で書かれている市もたしかにございます。本市の事例で申しますと、お手元のバインダーの方にもはさませていただいていますのでご参照いただけましたらと思います。オレンジ色の冊子でございますが、本市の場合は定性的な書き方にしており、これをベースに基本的にはたたき台としてお示しさせていただいております。</p> <p>具体的な可視化など、資料としての掲載につきましては、今後議論を進めていただく中で、ご検討もいただけたらと思いますが、基本的には数値的に書けるものと書けないものがあると思いますので、今の時点では、こういった形で進めていってはどうかと事務局の方では考えております。</p> <p>前回、様式のイメージをお示ししましたけれども、そこに落としたときに、今でもそうですが、写真を入れたり、その中で表を入れたり、グラフを入れたり、見やすくという形で、レイアウトなどでいろいろと工夫をしていくことは可能かと思っています。できるだけ理解しやすいようにという観点で工夫していきたいと思っています。</p>
加藤副部長	<p>今の具体的な指標とも関係しますが、例えば、「生涯学習」のところでも「図書館サービスの充実」とあります。今までの進捗状況の推移で、「図書館の利用者の割合」（年度中に1回以上図書館資料を借りた利用者／人口）とあるが、年々減少していて、たぶんそれを表そうとしているわけではないと思います。図書館の利用の仕方はかなり違ってきているので、言わばそれに合わせたような指標の取り方をしないとイケない。もっと言うと、図書館は何のために使うのかということがありますので、そこまで踏み込んでやられるとすれば、ちょっと違う感じになると思います。</p> <p>今、図書館は指定管理者制度ではないのか。誰が管理されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>今は市が直接で管理しています。ただ、分館のうち、いわゆる生涯学習市民センターと合築しているところについては、2年後から指定管理という形で準備を進めています。</p>
加藤副部長	<p>資料の中にそういうことが入っているかどうかということもありますが、今はネットでもかなり情報が収集できるので、利用の仕方が随分変わってきていて、高齢者の方で時間とこだわりを持っている方なんかは本当に自分で研究したいと思っています、図書館の利用の仕方も、本を借りていくというよりは、自分で何かやっていくときのサポートあるいはアドバイスをしてくれるような制度に本当は変えないといけないのだろうと思います。それが、「図書館サービスの充実」ということで意味されているのかどうかということが気になっています。</p> <p>また、それを具体的にしたときの指標は何でとった方がいいのか、そのへんは工夫がいるところかと思いました。これは、この指標の取り方すべてに当てはまります。</p>
新川部長	<p>今の「生涯学習」の図書館のところでは、例えば、「取り組みの方向」で、「市民が利用しやすい魅力ある図書館」、「知の源泉となる図書館機能の充実」、「豊かな心を育む読書活動を推進」という方向は出ているが、「行政の主な取り組み」が「図書館サービスの充実」では話にならないということになるのだろうと思います。</p>
徳久委員	<p>「文化芸術」のところですが、実は、日本はアマチュア大国で、アマチュアの方がサークルをいっぱいやって、いろいろな芸術活動をされていることが多いと思うのですけ</p>

	<p>れども、ここに挙がってきているのは、とても大きなイベントをやっている人たちとか、大きな市が開催する芸術などのイベントに来てくださいみたいな話になっていて、先ほどの生きがいの話にもつながってくると思うのです。自分たちが日常的に芸術活動をやって元気になっていくという関係性があると思うのですが、そういう観点が全然ないので、ここに入れた方がいいのか、健康づくりに入れた方がいいのか、少し考えるところですけども。箱物があって文化芸術活動という発想ではなくて、ソフトな形で文化芸術活動を考えるべきですし、先ほど加藤副部会長がおっしゃったように、「生涯学習」の図書館のところも、おそらく今の学生などは特に図書館を学びの場として使っていたりするので、本そのものを読んでいるところ、本を借りますというところではなくてきていて、今どういう市民の需要があって、それに対してどういうものを提供していくのかという発想に改められた方が現実的なんじゃないかと思いました。</p> <p>「行政の主な取り組み」で、もっとアマチュアサークルの人たちが発表するような場の提供など、大イベントだけではなくて、生涯学習市民センターを使いやすくするとか、本当微々たることってたくさんあると思うのです。そういう、ちょっとした日常的事も、ここに入れた方が本来の意味で文化だと思います。</p>
新川部会長	<p>そうなんです。12 ページにある「文化芸術」でいうと、「取り組みの方向」では「市民の関心・理解を深める取り組みを進めます」とあるのに、「行政の主な取り組み」になると「市民の文化芸術活動の支援」で終わってしまっていますので、これでは、せっかく市民の関心を広げて、そして市民を応援して何か活動を積極的にやらしてもらおうというところで、市の進め方が腰砕けに見えてしまうということがあるかもしれません。</p> <p>今、加藤副部会長や徳久委員からもお話があったとおり、学習とか、あるいは文化芸術活動については、今、情報社会というか、使い方だとか、アクセスの仕方からその利用の仕方、一人ひとりがそれを活用して何かをやっていくときのスタイル自体が本当にどんどん変わってきていますので、なかなか個々に追いかけていくことは大変ですけども、そういう大きな潮流、流れみたいなものを少し考えながら対応策を考えていかないと、それこそ、旧態依然とした計画になってしまうかもしれません。ここは、少しご担当など含めてご検討いただければと思います。</p>
三輪敦子委員	<p>「子育て」のところですけども、「取り組みの方向」でいうと上から3つ目の欄になるのですが、「子育てと仕事の両立支援に向け～」というところで、枚方市は病児保育は実施していなかったでしょうか。</p>
事務局	<p>実施しております。</p>
三輪敦子委員	<p>そうであれば、病児保育に関してどこにも出てきていない気がするのですが、病児保育について書かれた方がよいのではないかと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>全体に通じることだと思いますけれども、「健康」でもそうなのですが、病気になったら、身体が悪くなったら、こういうセーフティネットなどの対策を張っておきますよという書き方の文言がすごく多くて、これだとみんな病人になったときの受け皿を用意しておくというイメージの書き方になっているような感じがします。むしろ、例えば、「健康」であれば、どうやったら、みんなが生き生きと輝きながら健康な毎日を過ごせるかということを支援していく仕組みが入っていないと、不健康でものすごくコレステロールの高いものを食べながら病人をたくさんつくっておいて、そうなったらちゃんと手当てしますという書き方ではないかという気がします。それは、スポーツだけではないと思います。</p> <p>それは例えば、「高齢者福祉」でも同様で、認知症になったらどうしますよ、介護になったらどうしますよということばかりで、まず、高齢者が健やかに最後まで生き生きと生きる社会はどうつくっていったらいいのかという視点が落ちていて、このまま、セーフティネットがものすごくたくさん張り巡らされていくところに尽力がそそがれていくような行政スタイルになるとしんどそうだと思います。</p>

三輪敦子委員	<p>「子育て」の下から2つ目「取り組みの方向」に児童虐待のことが書かれていて、方向として発生予防、早期発見、早期対応ということはまったく異存はないですが、「行政の主な取り組み」のところ「児童虐待防止体制の充実」の1行だけでは、具体的な取り組みがよくわからないと思います。報道などでも、当事者やその周囲の人が、使えるサービスとか頼れる支援等に全く気がつかないまま最悪の事態に陥ったといったケースによく接しますので、体制の充実以上の書き方というか、何か具体的な施策が求められると考えなければいけないのではないかと思います。</p>
徳久委員	<p>先ほどの三輪委員のお話に追加して、先ほど小原委員も計画が暗いと言われていたことと一緒に思うのですけれども、最近、小学校で風邪にならない体操をみんなでやっていたり、自治体が一生懸命に仕掛けて、高齢者が健康いきいき体操をやっていたりする地域っていっぱいあると思います。予防医療って、さんざん厚労省が言っている割には、枚方市の基本計画の中で、いかに病気にならないのかという話が欠落しているので、やはり「健康」のところ、長生き、元気に生活するにはどうしたらいいのだろうということ、1項目立てた方がいいと思います。実際、行政にも保健師さんがいろんな指導に入れていると思いますし、民間の団体でも、それこそサークルレベルで、ゲートボールをやっている人がいっぱいいたりとか、健康体操を一生懸命教えている団体があったりするわけですから、そういった点を入れて、万が一リスクを負った場合にはこういうセーフティネットがありますよという前向きな書き方に変えることはすてきなことだと思います。</p>
新川部会長	<p>「健康」というと、もっともっと健康になるということ、大きなテーマに掲げて、これらの取り組みを前向きに書いていただくとしても嬉しいです。それはたぶん「高齢者福祉」にしても、「生涯学習」にしてもそうだと思います。「芸術文化」のところは多少そういう雰囲気がありますけれども、全体的にそこを少し意識して、どうしても現状課題、問題点を洗い出すところから出発していますので、それをどう解決するかということで計画を立ち上げているということになりますけれども、むしろそうではなくて、今よい状態にあるものをもっと伸ばしていくとか、それをさらにレベルアップしていくという書き方、言い方があるかと思います。それを通じて、実はハイリスク症候群の方々も健康になっていくかもしれないということを考えてもいいのかもしれない。ここはご検討ください。</p>
三輪信哉委員	<p>そうすれば、きっとお金が減るでしょう。税金の使いどころがだんだんよい方に回って行って、少ないお金でいろいろなことがちゃんとうまくいくような、医療費が減っていく状態が表れてくると思います。事実、イギリスでも、もっと手厚く食生活とかを見直していくところから、お医者さん方が協力して全部改善されたという話もあります。</p>
加藤副部会長	<p>「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」の言葉自体は非常に明るいと思うのですけれども、実際に行政がやる仕事と、あるいは一般の市民が担うべきことを、暗黙の内に分けている、要するに最低限のミニマムな行政サービスを提供するのが自分たちの役割だということ、どちらかというと暗い感じになっている。ところが、もし役割分担みたいなものが想定されるのであれば、楽しいところはみなさんでどんどんやったらいいじゃないという、そこを言っているのかどうかは問題ですけど、むしろ、そういう議論というのどこかであってもよさそうな気がします。ここは議論のあるところでしょうか。</p>
新川部会長	<p>結果、そういう書き方にならざるを得ない部分もあるかと思いますので、「課題」や「取り組みの方向」によって違ってくると思います。</p> <p>全体として落ちてしまっているものを、最低限度まで引き上げないといけないということがあれば、そこから先はみんな頑張っただけという市民側の協力ということに置き換えをするというのも当然あると思いますし、いやいや、市としても、みんながもっとよい状態をさらによくしていく、もっと活発に芸術活動をしていく、そういうところに目</p>

	<p>を向ければ、それは行政としてもやっていく、そういうものも出てくると思いますので、そこは両用で少し整理をしていただいて、もちろん、本来の行政の役割はどこまでかという議論はあるんですけども、行政の役割を改めていくのも基本計画の中できっちりと整理をしていくということだろうと思っております。そこはむしろ積極的に書き分けていただければと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>行政っていうのは、市民の成長に半歩前を歩きながら、あるいは半歩後ろから押しながらという役割ってあると思うのですね。行政の職員の皆さん方は、一般市民が持ち得ないようなコアな情報を集積したプロ集団だと思います。そういうプロ集団が持っているノウハウは、市民の方々に、どうぞあなた方頑張ってくださいというより、例えば、他市ではどういう健康づくりの方法をやっているかということやすぐに集めてくるのは市の能力ですよ。そういう能力をお持ちの集団は、社会を1歩でも2歩でも前に育てていくという、出過ぎて上から引っ張ってしまうのはやっぱりちょっと違うと思うと思います。寄り添いながら市民をだんだん成熟化させていく、そういうプロフェッショナル集団としての自覚は抜いてはいけないと個人的には思っております。</p>
三輪敦子委員	<p>計画が暗いと言われていることとの関連ですけれども、どうしてもこうした計画は、課題ありきで、その課題をどう解決していくかというところに目が向きがちだと思います。しかし、課題をどうやって解決するかというところに目が向きすぎると、どうしても問題が強調されてしまい、暗くなる傾向があると思います。特にミクロなレベルの計画立案で強調されていることなのですが、対象となる地域や行政の強みにまず目を向けて、計画を作っていくことの利点や効果に目が向けられるようになっていきます。そうすると、関わっている人たちも明るくなって、みんなが前向きに計画の立案と実施に取り組めるようになることが報告されていて、そうしたことも考えてもいいかなということも、議論を聞きながら思っていました。</p>
新川部会長	<p>そのあたり、ぜひ枚方の強みみたいところを市としてどう生かしていくか。そういう観点でも考えを出していただければと思います。</p> <p>いろいろと話をしていると、もう8時を過ぎてしまいましたが、今日全体を通じて何かこれだけは言っておきたいということがあれば、最後におうかがいをして今日は閉じたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>本日はいろいろとご意見いただき、ボードに書いていただきましたので、また終わりましたらさっと見ていただいて、たぶん、ご意見が言い足りなかった、言ったこととはちょっと違っているところもおありかと思えます。そこにつきましては事務局の方にご連絡をいただいて、次回の議論に生かしていきたいと思えますけれども、事務局の方から少しその辺りの取り扱いも含めて、お話をいただければと思います。</p>
事務局	<p>本日は大変貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>それでは先ほどの審議会の今後のスケジュールの説明の際にもお伝えいたしました。本日ご議論いただきましたこの基本計画のたたき台である「部門別の課題と対応一覧(案)」でございますが、3月上旬から中旬にかけて、またお時間を頂戴して、委員の皆様のもとに我々お伺いさせていただいて、この基本目標の1から3の柱に加えまして、あと本日ご議論いただけない基本目標の4、5と、行政運営分野ということになりますけれども、あわせて資料全体につきまして、ご意見等をいただければと考えております。</p> <p>また、本日の資料等について、ご不明な点等がございましたら、私ども事務局の方でお伝えいただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日の資料につきましては、このまま置いておいていただければ、バインダーの方にとじさせていただきます。</p> <p>会議録につきましては、先ほど審議会と同様、部会長ともご相談させていただいた後、ホームページ等で公表してまいりたいと考えております。</p> <p>次回の部会につきましては、先ほども申し上げましたが、3月23日(月)午後6時か</p>

新川部会長	<p>ら、枚方市駅北口、こちら通常南口の方から出ていただいておりますが、北口にございますラポールひらかたという市の施設で行わせていただきます。改めてご案内させていただきます。改めてご案内させていただきます。以上でございます。</p> <p>今後の進め方等々についてご説明いただきましたが、少しいろんなご意見が出てきましたので、議事録というよりは第2部会も含めまして、各部会での論点のメモのようなもので結構ですが、公開版のように完成ではなくとも粗くても結構ですので、少し早めに、各委員にお話を聞く前にお届けしていただいて、それも参考にさせていただきますながら、各委員にご意見を聞いていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>各委員から今後の進め方についてご意見ございましたら、よろしいですか。それではすみません、また10分ぐらい時間が過ぎてしまいましたが、第3回枚方市総合計画審議会第1部会は以上にしたいと思います。来月もまたよろしくお願いいたします。どうもご苦労様でした。ありがとうございました。</p>
-------	--